

満席の観客を迎え、音楽芸術としての邦楽の魅力を伝えることができた

山路 みほ

活動の目的

倉敷では洋楽のリサイタルや箏曲の発表会などはあるものの、箏曲のリサイタル形式は皆無に近く、プロ奏者による箏・三絃・尺八などの生の演奏を聴く機会もほとんどなく、若い人の邦楽離れは深刻な問題である。邦楽本来の細やかで遊び心もある素晴らしい音楽を一人でも多くの方に知っていただくために箏曲リサイタルを開催した。世界で活躍している奏者を倉敷に迎え、また地元倉敷でも指導や演奏活動をしている奏者と、さらに箏や尺八を学んでいる人たちにも出演してもらい、一緒に演奏することでプロ奏者の演奏を直に感じて、より芸の高みを目指してもらうことを目的とした。

活動の内容及び経過

「箏曲」とは、本来「箏」「地歌三絃」「地歌」の3つを奏して「箏曲」である。

「地歌」（歌）があることをほとんどの人は知らない。まず、「箏曲とは」という観点からこのコンサートを聴いていただくことを目的としてプログラムを組んだ。

1曲目は三絃での弾き歌い「勤行寺」。この曲は早口言葉を取り入れ、地歌の中でも面白く楽しみながら聴くことができる。

2曲目には地歌の代表作「尾上の松」を、箏を山路、三絃を菊央雄司氏、尺八をロシア人尺八奏者イオ・パヴェル氏の3名で演奏した。

10分間の休憩を挟み、後半1曲目は北原白秋の詩を箏の伴奏で歌う「ゆれる秋」（沢井忠夫作曲）。アナウンサー遠藤寛子氏の朗読で世界観を作り演奏に入った。秋をととても深く捉えた芸術性の高い曲である。

続いて現代邦楽の骨頂「二つの歌」。いろは歌から始まり、低音楽器の十七絃と能管の合奏で幽玄の世界を醸し出す。やがて、長管2尺3寸（B管）の尺八の演奏に合わせてヴァイオリンの弓で十七絃の糸を鳴らす。曲が進むと今度は、糸や木のボディをスーパーボールでこすり、すすり泣くような音を作る。その後、1尺8寸（D管）の尺八と十七絃のアンサンブルで曲が高まってくると、尺八から能管へ再び持ち替え会場の空気を裂くような高い音でフィナーレを迎える。最後は声明の謡が続き拍子木で曲が終わる。作曲者である横山勝也氏のジャンルを超えた広い世界観が感じられる曲である。「2種類の尺八」「能管」「拍子木」「声明」と、全く違う楽器と歌を特別出演の石川利光氏に見事に演奏していただいた。

リサイタルの終曲は「黒田節による幻想曲」（沢井忠夫作曲）である。特別出演の石川利光氏、菊央雄司氏、賛助出



演のイオ・パヴェル氏、倉敷の箏奏者渡谷元子氏、川口航稀氏、尺八奏者の大西杏山氏、松尾公臣氏、実光謙山氏、そして岡山で箏曲・尺八を学んでいる人たち総勢24名で演奏し、終演を飾った。

活動の成果・効果

多くのお客様にご来場いただき、「邦楽のイメージが変わった」というアンケートやお声をいただいた。実際に「箏（三絃・尺八）をやってみたい」というお声も少なからず届いている。最初の一步としての成果と効果は十分に感じられた。

今後の課題と問題点

岡山には邦楽をエンターティナーとしてではなく、音楽芸術としてプロデュースできる業者が少ないため、ステージマネージャーを東京から招き、その他の舞台裏業務（プロデュース、打ち合せ、事務仕事、宣伝活動など）は、演奏者（山路）本人がすべてを執り行ったため、演奏に集中することが困難であった。

楽器や金屏風に毛氈などと特殊な舞台であるため誰でもが舞台裏をすることができず、この業務に課題が多く残った。

- 代表者：山路みほ ●所在地：倉敷市玉島
- TEL：090-4147-5386
- E-MAIL：mihohanakowan@ybb.ne.jp
- URL：http://yamajimiho.com/
- 設立年：1995年 ●メンバー数：1名